



JSPS Strasbourg Office Quarterly / 2009-10 No. 4

日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告

(2010年1月~3月)

フランスでは、3月最終日曜日からサマータイムとなり、時計の針は1時間進められます。そのため、日没の時間は遅くなり、3月末ですでに午後8時前まで明るいです。

4月4日は復活祭であり、3月中旬以降、ストラスブールのパン屋やお菓子屋のショーウィンドーには、チョコレートで作られた復活祭のシンボルとされるイースター・エッグや多産の象徴であるウサギ(イースターバニー)が飾られています。



学術セミナーの開催

2010年1月から3月までの間に、日仏学会館との共催で、日仏の研究者を招待して、様々なテーマで以下の学術セミナーを開催しました。

1月18日 / 第82回学術セミナー

講演者：富田純一 准教授(東洋大学)

講演タイトル：「日本液晶産業における国際競争力の変化」”The change of global competitiveness in the Japanese Liquid Crystal Display industry”

フラットパネルTVの主要部品の一つである大型液晶ディスプレイ(LCD)は、日本企業が世界に先駆けて1990年代始めに技術開発・商業化したものであり、世界中のTVがブラウン管からフラットパネルに置き換わりつつある。しかし、わずか10年ほどの間に日本企業は韓国・台湾企業にキャッチアップ・逆転されたのは、製造部品のモジュール化、LCD生産技術の移転によるところが大きいと解説された。



学術セミナー後、講演者の富田准教授(左から6人目)と参加者。

2月25日 / 第83回学術セミナー

講演者：Prof. Richard KLEINSCHMAGER (Université de Strasbourg)

講演タイトル：「アルザスにおける政治勢力 - 永続性と発展 - 」”Les forces politiques en Alsace, permanences et evolutions”

アルザス地方の政治は、フランスの他の地方とは異なったアルザス地方の歴史に由来する特徴を持っている。2010年の春の地方選挙を前にして、演者はアルザスの5つの政治勢力の特色と支持層について解説した。



会場からの質問に答える KLEINSCHMAGER 教授。

3月3日 / 第84回学術セミナー

講演者：Prof. Olivier ROHR (Université de Strasbourg)

講演タイトル：「HIV-1 - 隠れたウイルス - 」 ”HIV-1: Un virus tapi dans l'ombre”

1996年に導入されたマルチセラピーのお陰で、エイズウイルスの撲滅に希望がもたらされた。しかるに、組織中の潜在ウイルスの存在が明らかにされ、それが治療への大きな障害となった。演者らは、新しい治療を開発するため、分子レベルでの潜在ウイルスのメカニズムの研究について紹介した。



会場からの質問に答える ROHR 教授。

3月9日 / 第85回学術セミナー

講演者1：杉山大介 准教授 (九州大学)

講演タイトル：「マウスにおける造血発生研究とその臨床応用の展望」 ”Hematopoietic development in mice and implications for haematotherapy”

造血幹細胞 (HSC) は、人体の血液細胞の元になる組織特有の幹細胞である。HSC は、血液病の移植治療に用いられてきたが、いくつかの問題を抱えている。これらの問題を解決するため、演者らのグループによるマウスの造血幹細胞の発達研究について解説された。



学術セミナー後、講演者の杉山大介准教授 (右から5人目)、堤香織助教 (右から4人目) と参加者。

講演者2：堤香織 助教 (北海道大学)

講演タイトル：「放射線治療を生き残る腫瘍細胞の細胞特性を決定づけるキー分子同定への挑戦」 ”Challenge for identification of key molecules that characterize the property of tumor cells that survive radiotherapy”

放射線治療は癌の非侵襲的な治療法として重要な治療方法の一つである。近年の著しい放射線治療技術の進歩は治療成績を大きく向上させたが、放射線治療後に発生する再増殖腫瘍細胞の制御は困難であり、再増殖腫瘍細胞は、照射前の腫瘍と比較して悪性度が高く、患者の生命予後を悪化させる。この問題を解決すべく、放射線治療後に増殖する腫瘍細胞の悪性度を決定している重要分子の同定を試みていることについて解説された。

3月24日 / 第86回学術セミナー

講演者：Dr. Olivier ARIFON (Université de Strasbourg)

講演タイトル：「市民社会とインターネット - 日本のケース - 」
”Internet et société civile : le cas du Japon”

ヨーロッパのような伝統的社会における情報伝達の技術は、社会構造、政治権力、社会の諸階層、そして個人にインパクトを与える。演者らの研究グループは、東洋のいくつかの国における情報・伝達の技術の上記項目への影響について調査を行い、その調査結果について解説された。



インターネットの社会に対するインパクトについて解説する ARIFON 博士。



フランスの大学、グラゼ'コール、研究機関への訪問：JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

当センターは、フランス各地の大学・研究機関を訪問し、大学幹部や研究者と直接に対話を行い、また、その機会に各地の JSPS 同窓会との交流を深めています。

1月4日 / Université de Poitiers (ポワティエ大学) 訪問

ポワティエ大学のあるポワティエ市は、ガリア・ローマ時代よりパリとボルドーを結ぶ都市として栄えた古都であり、732 年にフランク国王カール・マルテル(シャルル・マルテル)がイスラム教徒を破ったトゥール・ポワティエの戦い、また百年戦争のさなかのポワティエの戦いと、歴史的な戦争の舞台となったことでその名が知られています。

ポワティエ大学は、1431 年にローマ教皇エウゲニウス 4 世によって創設され、フランス国王シャルル 7 世の勅書によって大学として認証されました。創設当初は、神学部、教会法学部、民法学部、医学部、芸術学部から構成され、パリに次ぎ、フランスで 2 番目に古い大学とされています。さらにフランス革命後には、文学部、理工学部が設置されました。16 世紀にはフランソワ・ラブレー、17 世紀にはルネ・デカルトを輩出しています。

現在のポワティエ大学は、法学・社会科学、文・言語学、医・薬学、経済、基礎応用科学、人文・芸術学、スポーツ科学の学部、大学院、研究所を有しています。また、学生数約 24,000 名(内、留学生 3,000 名)、教職員数約 3,000 名の規模となっています。ポワティエ大学は 2010 年 1 月現在で、共同プログラム 3 件、パートナーシップ事業 1 件の合計 4 件の修士課程プログラムでエラスムス・ムンドゥスに採択されており、修士課程での 4 件の採択件数はフランス国内 1 位の数字となっています。採択されたプログラムの分野は物質材料学、生態学、教育学、社会学と多岐にわたっており、同大の学際的な特徴を反映しています。特に物質材料学でギリシャ、ポルトガル、カナダ、ブラジルの 4 カ国の大学と連携して採択された International Master in Advanced Clay Science (IMACS) では、粘土やコンクリートといったジオマテリアルの研究を主としていますが、医療用物質としての発展も期待されており、注目を集めています。

今回の訪問では、Prof. Jean-Pierre GESSON(学長)、Prof. Salwa NACOUZI(国際担当副学長)、Prof. Olivier BONNEAU(研究担当副学長)と面談し、ポワティエ大学の概要説明のほか、ヨーロッパ諸国以外からの留学生受入や、日本との研究者交流拡大に向けて意見交換を行いました。その後、Prof. Olivier BONNEAU(研究担当副学長)司会のもと、研究者、ポスドク、大学院学生を集めて、JSPS 事業のプレゼンテーションを行ったほか、JSPS-OB で同大学名誉教授の Prof. Gerard TOUCHARD、また京都大学から招聘を受けたことのある Prof. Herve SABOURIN の 2 名による日本での研究及び滞在についてプレゼンテーションが行われました。

さらに、霊長類・古生物学研究所 (Institut international de Paléoprimatologie, Paléontologie Humaine)、生理学・細胞生物学研究所 (Institut de Physiologie et Biologie Cellulaires)、航空力学・熱学研究所 (Centre d'études aérodynamiques et thermiques) を訪問し、各研究室長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。2002 年には、霊長類・古生物学研究所の Michel Brunet 教授の率いる La Mission Paléanthropologique Franco-Tchadienne (MPFT) により、700 万年前の最も古い Hominid Toumaï が中央アフリカのチャド共和国にて発見されました。

また今回の訪問では、Prof. Olivier BONNEAU(研究担当副学長)出席のもと、当地の JSPS 同窓会員との親睦会を開催し、JSPS-OB との交流を深めました。



ポワティエ大学学長表敬訪問 (Prof. Jean-Pierre GESSON 学長 (左から 2 人目))



Prof. Salwa NACOUZI (国際担当副学長、左から 2 人目) Prof. Olivier BONNEAU (研究担当副学長、右端) に JSPS 事業を説明する中谷センター長 (左から 3 人目)



JSPS 事業のプレゼンテーション。



Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



日本での研究生生活を語る Prof. Gerard TOUCHARD (ポワティエ大学名誉教授、JSPS-OB)



日本での研究生生活を語る Prof. Herve SABOURIN (ポワティエ大学教授)



霊長類・古生物学研究所訪問。(Dr. Guy FRANCK CNRS 研究員 (左から 2 人目))



生理学・細胞生物学研究所訪問。(Prof. Frédéric BECQ 生理学・細胞生物学研究所長 (真ん中) Prof. Olivier BONNEAU 研究担当副学長 (左から 2 人目))



航空力学・熱学研究所訪問。(Prof. Olivier BONNEAU 研究担当副学長 (右端))

1月6日 / Université de Tours (トゥール大学) 訪問

トゥール大学のあるトゥール市は、フランス中西部、アンドル・エ・ロワール県の県都で、ロアール河とその支流シェール河に挟まれ、15世紀のルイ11世の時代には、一時的にフランスの首都となったこともある町です。また、ロアール河に沿って、主に15世紀前後に建築された城が田園の中に点在し、その風景美は「フランスの庭園」と称されています。そこでは、多くの優れた作家、音楽家が競い、ルネサンス文化の華を咲かせました。トゥール市は、これら古城観光の起点の町としてだけでなく、ロアール・ワインの集散地としても有名です。

トゥール大学の前身は、1841年設立の医学校に起源を持ちます。第二次世界大戦後から1960年代にかけて、トゥール市に法学校、文学校、ルネサンス研究所、理学校、医学校、工学校が設置され、これら諸学校が1970年に統合され、現在のトゥール大学となりました。現在、トゥール大学は、法・経・社会学、文・言語学、芸術学、医学、薬学、理工学の学部、大学院、研究所を有しています。また、学生数約20,000名(内、留学生2,400名)、教員数約1,300名、事務官・技官約950名の規模となっています。

今回は、トゥール市南部にあるトゥール大学理工学部・薬学部キャンパスを訪問し、Prof. Alain VERGER(同大学理工学部長)、Prof. Gilles VENTURINI(大学院博士課程学生部長)と面談し、理工学部の概要説明を受けるとともに、日本との学生・研究者交流について意見交換を行いました。その後、Prof. Gilles VENTURINI(大学院博士課程学生部長)の司会により、研究者、ポスドク、大学院学生を集めて、JSPS事業のプレゼンテーションを行ったほか、JSPS-OB 4名による日本での研究及び滞在についてプレゼンテーションが行われました。

さらに、材料科学研究室、分子生物学・植物学研究室、数学研究室を訪問し、各研究室長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。

また今回の訪問では、当地のJSPS同窓会員との親睦会を開催し、JSPS-OBとの交流を深めました。



JSPS事業のプレゼンテーション。



日本での研究生生活を語る
Prof. Patrick LAFPEZ (トゥール大学教授、JSPS-OB)



日本での研究生生活を語る
Dr. Pascal BASEILHAC
(CNRS 研究員、JSPS-OB)



日本での研究生生活を語る
Prof. Emmanuel CESIGNE
(トゥール大学教授、JSPS-OB)



日本での研究生生活を語る Dr.
Marc PEIGNÉ (CNRS 研究員、JSPS-OB)



トゥール大学理工学部・薬学部キャンパス。



材料科学研究室訪問 (Prof. Patrick LAFFEZ, JSPS-OB)。



分子生物・植物学研究室訪問(Prof. Benoit St-PIERRE (右端) Prof. Joël Crèche (左端))。



右端から、Prof. Gilles VENTURINI (大学院博士課程学生部長) Prof. Joël Crèche (同大学分子生物・植物学教授、JSPS 事業説明会オーガナイザー) Prof. Emmanuel CESIGNE (同大学数学教授、JSPS-OB) Prof. Alain VERGER (同大学理工学部長) Prof. Guy BARLES (同大学数学教授)、中谷センター長、Dr. Hiroyoshi MITAKE (日本学術振興会特別研究員) Prof. Benoit St-PIERRE (同大学分子生物・植物学教授)。



数学研究室訪問 (Prof. Guy BARLES (左端) Prof. Emmanuel CESIGNE (JSPS-OB、左から 2 人目) Dr. Hiroyoshi MITAKE 日本学術振興会特別研究員 (右端))。

2月10日 / Université de Pau (ポー大学) 訪問

ポー大学のポー・キャンパスがあるポー市は、フランス南西部、ピレネー・アトランティック県の県都で、スペインとの国境に横たわるピレネー山脈を望む地に築かれた町です。また、ポー市はピレネーの雄大な景色とともに、ナントの勅令で知られるアンリ 4 世が生まれた町としても有名です。

ポー大学は、1970 年創立の新しい大学で、4 つのキャンパス (Pau、Anglet Bayonne、Tarbes、Mont-de-Marsan) から構成され、人文・社会学部、法経学部、理工学部、法・経済・文学を履修できる学際学部、および大学院、研究所を有しています。また、学生数約 11,200 名 (内、留学生 2,400 名) 教員数約 700 名、事務官・技官約 480 名の規模となっています。

今回は、ポー市北部にあるポー大学ポー・キャンパスを訪問し、Dr. David BESSIERES (同大国際担当副学長) との面談では、ポー大学の概要説明を受けるとともに、日本との学生・研究者交流について意見交換を行いました。また、Dr. Sylvie Blanc (CNRS 研究員) のアレンジ、Dr. Brice BOUYSSIERE (同大学国際担当官) の司会により、研究者、ポスドク、大学院学生を集めて、JSPS 事業のプレゼンテーションを行ったほか、JSPS-OB 5 名による日本での研究及び滞在についてプレゼンテーションが行われました。

さらに、環境・材料学研究所 (Institut Pluridisciplinaire de Recherche sur l'Environnement et les Matériaux (IPREM)) 石油工学・石油応用工学研究所 (Institut Pluridisciplinaire de Recherche Appliquée dans le Domaine du Génie Pétrolier (IPRA)) を訪問し、各研究所長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



日本での研究生生活を語る
Dr. Delphine FLAHAUT
(ポー大学講師、JSPS-OB)



日本での研究交流を語る
Prof. Robert DURAN (EEM
研究室長、JSPS-OB)



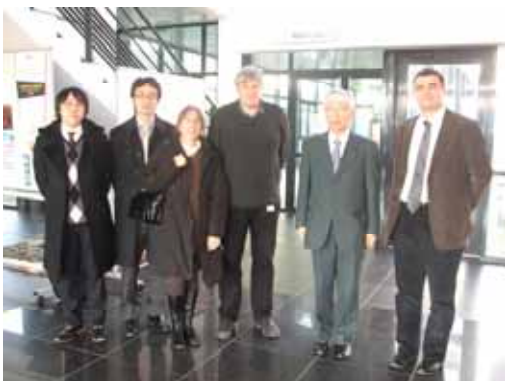
日本での研究生生活を語る
Prof. Jacques JAUSSAUD
(IAE 副所長、JSPS-OB)



日本での研究生生活を語る
Dr. Christine CAGNON
(ポー大学講師、JSPS-OB)



日本との共同研究を語る
Prof. Ryszard LOBINSKI
(ポー大学化学科教授)



IPREM 訪問 (Prof. Olivier DONARD 所長 (右から
3 人目)、 Dr. Brice BOUYSSIERE ポー大学国際担当
官 (右端)、 Dr. Sylvie BLANC ポー大学講師 (JSPS
事業説明会オーガナイザー、左から 3 人目)、



ポー大学環境・材料学研究所 (IPREM)

パリ大学は、12世紀に創設されたヨーロッパでも最も歴史のある大学のひとつで、パリ、クレティユおよびヴェルサイユの3大学区にある13の大学の総称であり、パリ第6大学はこの13校ある大学のひとつです。パリ大学は、1968年の高等教育改革法に基づき13校に改編され、パリ第6大学はそれまで科学学部として属していたパリ大学からラジウム発見者であるキュリー夫妻の名を冠した大学として独立し、現在フランスにおける最も大きな科学・医学の複合大学となっています。

パリ第6大学は、化学、工学、数学、医学、物理学、生命科学、地球・環境・生態学の各学部、および大学院、研究所から構成され、学生数約31,000名(内、留学生6,000名)、教員数約5,600名、事務官・技官約4,400名の規模を有しています。

今回の訪問では、Prof. Dominique DUNON(同大生命科学研究科長)と面談し、パリ第6大学生命科学研究科の概要説明を受けるとともに、日本との学生・研究者交流について意見交換を行いました。また、Prof. DUNONの司会により、同研究科に所属する研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行ったほか、JSPS-OB 2名から日本での研究生活や経験談が語られ、JSPS事業についての質疑応答および意見交換を行いました。

さらに、生命科学研究科の核酸バイオ光学研究所(Le Laboratoire Acides Nucléiques et Biophotonique)を訪問し、研究グループ長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。



JSPS事業のプレゼンテーション。



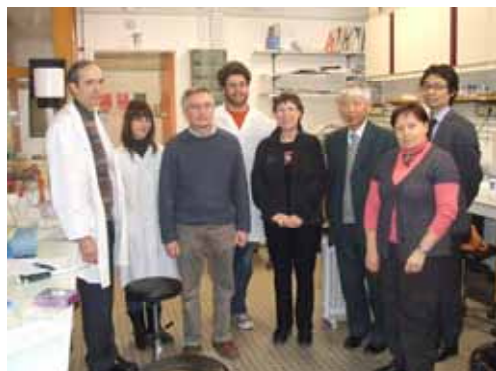
Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



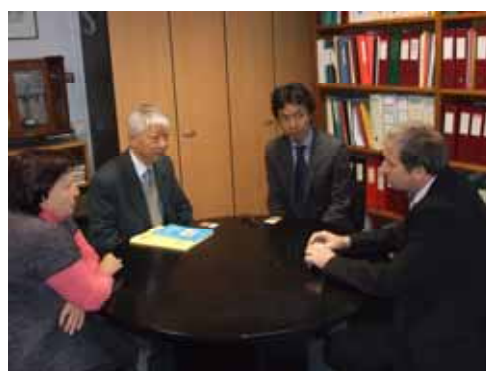
日本での研究生活を語る Dr. Anne-Lise POQUET-DHIMANE (パリ第6大学講師、JSPS-OB)



日本での研究生活を語る Dr. Jean-Philippe CHAMBON(パリ第6大学講師、JSPS-OB)



核酸バイオ光学研究所訪問(Prof. Marie-Christine MAUREL 研究所長(右から4人目))



Prof. Dominique DUNON 生命科学研究科長(右端)と意見交換。

2月18日 / PRES「Université Paris-Est」(プレス・パリ東大学)訪問

フランス高等教育・研究省の推進により、2007年7月、パリ東郊外の地域に、2つの大学(Marne-la-Vallée大学とVal de Marne大学)8つのグランゼコール(École des Ponts ParisTech、ESIEE Paris、École nationale vétérinaire d'Alfort、École des Ingénieurs de la Ville de Paris、École nationale d'architecture de la ville et des territoires à Marne-la-Vallée、École nationale supérieure Paris-Malaquais、École nationale supérieure Paris-Belleville、École spéciale des travaux publics)の計10の高等教育・研究機関が連合したPRES「Université Paris-Est」が創立されました。さらに、PRESにおける共同研究を推進するため、5つの研究所および1つのCompetitiveness Cluster(Advancity)が設立されました。

今回の訪問では、PRES「Université Paris-Est」のProf. Yves LICHTENBERGER(学長)、Prof. Patricia POL(国際担当副学長)、Prof. Remi POCHAT(研究担当副学長)と面談し、JSPS事業の説明を行い、一方、PRES「Université Paris-Est」からは、同PRESの概要説明を受けました。現在、同PRESには学生約45,000名(内、博士課程1,400名)、教員約2,900名が在籍しています。同PRESは、社会、経済、医療、情報基盤分野の高度かつ持続的発展を第一の目的として、上記大学、グランゼコール、研究センターが密接なコンソーシアムを組み、研究者および学生交流を活発に行うことができるよう努力されている様子が伺えました。

次いで、パリ市内から南東約15キロに位置するクレティユ市にあるPRES「Université Paris-Est」の1大学であるUniversité Paris-Est Créteil Val de Marne(旧パリ第12大学)を訪問しました。

Université Paris-Est Créteil Val de Marneは、医学、法学、国際関係、理工学、文学・人間科学、経済・経営学、教育・社会学、都市工学の学部、大学院、研究所を有し、学生数約32,000名、教員数約1,700名、事務官・技官約950名が在籍しています。同大学では、理工学部化学生物研究科(Faculté des Sciences et Technologies, Chemistry and Biological Activities)を訪問し、同研究科のProf. Dulce PAPY-GARCIAから研究科の概要説明を受け、同教授の研究室を見学しました。

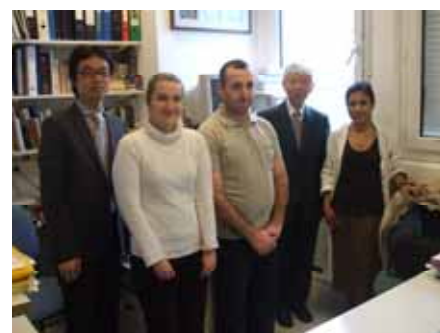
また同日午後には、PRES「Université Paris-Est」のいくつかの高等教育・研究機関のあるMarne-la-Vallée地域のDescartesキャンパスを訪問し、Prof. Patricia POLの司会のもと、PRESの各機関の国際担当者に対して学術振興会の事業説明を行いました。



Prof. Yves LICHTENBERGER 学長(右から2人目)、Prof. Remi POCHAT 研究担当副学長(左端)、Prof. Patricia POL 国際担当副学長(左から2人目)らと。



École des Ponts ParisTech での JSPS 事業のプレゼンテーション。



理工学部訪問(徳島文理大学で博士号を取得した Prof. Dulce PAPY-GARCIA(右端)の研究室にて)。

3月10日-11日 / Université de Rouen(ルーアン大学)訪問

ルーアン大学のあるルーアン市は、ノルマンディー公国の首都として栄え、ローマ時代からセーヌ川を利用した水運の拠点として発展してきました。現在もフランス有数の大都市として経済的にも重要な位置を占めています。また、ルーアン市は1431年にジャンヌ・ダルクが火刑に処せられた街としても知られ、火刑が

おこなわれたビュー・マルシェ広場にはジャンヌ・ダルク教会とジャンヌ・ダルク博物館があります。

ルーアン大学は、1605年に設立された医学専門学校に起源を持ちます。その後、1924年以降、法律高等学校、医薬高等学校、文学部、理学部が順次設立され、1966年に総合大学としてルーアン大学が誕生しました。現在のルーアン大学は、文学・人間科学、法学・経済経営学、教育・社会学、医薬学、理工学、スポーツ科学の学部、大学院、研究所を有し、学生数約24,000人（内、博士課程2,100人）教員数約1,200名、事務官・技官約800名が在籍しています。

3月10日の訪問では、Prof. Cafer OZKUL（学長） Prof. Nicole ORANGE（研究担当副学長）と面談し、ルーアン大学の概要説明を受けるとともに、JSPS事業の説明を行いました。また、Prof. Nicole ORANGEの司会のもと、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行い、その後、JSPS-OB4名による日本での研究生活や経験談が語られました。

事業説明会後には、同キャンパス内にある神経内分泌学研究ユニットを訪問し、Dr. Youssef ANOUAR 研究ユニット長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。

翌3月11日には、同キャンパスの精密有機化学研究所(Institut de Recherche en Chimie Organique Fine de Rouen (IRCOF))を訪問し、Dr. Jacques MADDALUNO (IRCOF 研究室長、JSPS-OB) から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。Dr. MADDALUNO 研究室長との懇談から、日本の諸大学と研究交流を盛んに行っている様子が伺えました。また、同日午後には、材料科学研究所 (Institut des Matériaux de Rouen)を訪問し、Prof. Didier BLAVETTE 研究所長へ学術振興会の事業説明を行うとともに、同研究所長から研究の概要説明を受けるとともに、材料物理研究室などの研究施設を見学しました。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



左から、Prof. Nicole ORANGE 研究担当副学長、Prof. Cafer OZKUL 学長、Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長、中谷センター長。



日本での研究生活を語る
Prof. Xavier
PANNECOUCKE(INSA
ルーアン研究担当副学
長、JSPS-OB)



日本での研究生活を語る
Dr. Dominique CAHARD
(CNRS 主任 研究員、
JSPS-OB)



日本での研究生活を語る
Dr. Ludovic GALAS
(INSERM 技術研究者、
JSPS-OB)



日本での研究生活を語る
Dr. Jean-Luc DO REGO
(INSERM 技術研究者、
JSPS-OB)



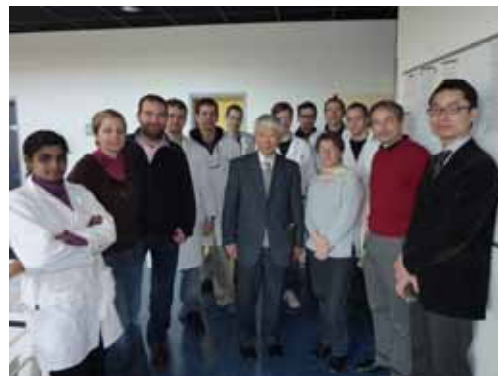
Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



神経内分泌学研究ユニット訪問。Dr. Youssef ANOUAR 研究ユニット長（右端）。



材料科学研究所を訪問。Prof. Didier BLAVETTE 研究所長（右から 2 人目）と材料科学研究所を案内していただいた Dr. François VURPILLOT（左端）。



IRCOF 訪問。Dr. Jacques MADDALUNO 研究室長（JSPS-OB）（右から 2 人目）および研究室員の皆さんと。

3月12日 / Ecole Nationale Supérieure d'Ingénieurs de Caen & Centre de Recherche (ENSICAEN) (カーン・エンジニアリング・スクール) 訪問

ENSICAEN のあるカーン市は、ノルマンディー地方西部における政治、経済の中心都市であり、「ノルマンのイギリス征服」で知られるウィリアム征服王が築いた居城跡があります。また、カーン市は第 2 次世界大戦のノルマンディーの戦いで町の大部分が破壊されましたが、現在では主な建物は復元され、文化都市として見事に再建されています。

ENSICAEN は、1911 年から 1912 年にかけて、カーン大学内に創設された応用科学研究所に起源を持ちます。その後同研究所は、ノルマンディー技術研究所と化学研究所に分裂しますが、1976 年に再び統合され、放射線物質科学研究所(Institut supérieur de la matière et du rayonnement)が設立されました。そして、2002 年、放射線物質科学研究所は ENSICAEN (Ecole Nationale Supérieure d'Ingénieurs de Caen & Centre de Recherche) に改名され、現在に至っています。

現在、ENSICAEN には、電気・応用物理学分野、情報学分野、材料・化学分野、機械工学分野の 4 分野から構成され、学生数約 720 人（内、博士課程 180 人）、教員・研究者数約 270 名、事務官・技官約 140 名が在籍しています。

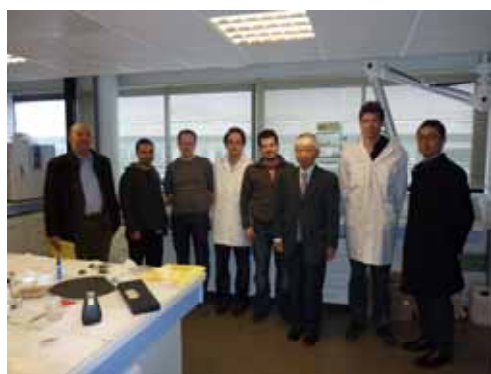
今回の訪問では、Prof. Dominique GOUTTE(学長)、Prof. Jean-Pierre GRANDIN(研究担当副学長)、Prof. Jacques ROUDEN (国際担当副学長) と面談し、ENSICAEN の概要説明を受けるとともに、JSPS 事業の説明を行いました。また、Prof. Jacques ROUDEN の司会のもと、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行い、その後、JSPS- OB4 名による日本での研究生活や経験談が語られました。

事業説明会前には、初めに結晶・材料科学研究所(Laboratoire de Cristallographie et Science des Matériaux (CRISMAT)) を訪問し、Dr. Emmanuel GUILMEAU (CRISMAT 研究員、JSPS-OB) から研究所の概要説

明を受けるとともに、研究施設を見学しました。次に、分子化学・硫黄研究所 (Laboratoire de Chimie Moléculaire et Thio-organique (LCMT)) を訪問し、Prof. Anne-Claude GAUMONT (LCMT 所長) から研究所の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。



LCMT 訪問。Prof. Anne-Claude GAUMONT 所長による概要説明。



CRISMAT 訪問。Prof. Jean-Pierre GRANDIN 研究担当副学長 (左端)、Dr. Emmanuel GUILMEAU (CRISMAT 研究員、JSPS-OB、右から4人目)。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



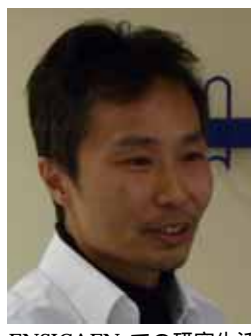
日本での研究生活を語る Dr. Matthieu DENOUEAL (ENSICAEN 講師、JSPS-OB)。



日本での研究生活を語る Dr. David BOILLEY (GANIL 研究員、JSPS-OB、OB 会副会長)。



日本での研究生活を語る Dr. Emmanuel GUILMEAU (CRISMAT 研究員、JSPS-OB)。



ENSICAEN での研究生活を語る 菅義明博士 (産業技術総合研究所主任研究員)。



日本での研究生活を語る Dr. Bernhard WITULSKI (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



日本の大学、研究機関等の国際化事業への協力、仏側対応機関、ストラスブール日仏学会館、在ストラスブール日本国領事館等との連携・協力

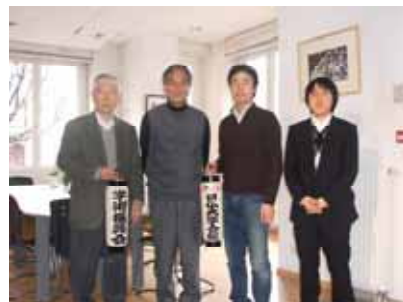
当センターでは、フランスにおけるこれまでの活動によって得られた情報、ネットワークの資産を活かして、日本との学术交流に興味のあるフランスの大学、研究機関からの照会に応じています。また、学生レベルでの日仏交流を促進するストラスブール日仏学会館が主催する事業にも参加・協力を行うとともに、在ストラスブール日本国領事館との緊密な協力関係の構築に努めています。

1月21日 / 立命館大学の中村尚武教授が来所され、中谷センター長と立命館大学とストラスブール大学との学术交流について、意見交換されました。



中村尚武教授（中央）と。

1月25日 / 東京大学の西郷和彦教授（前東京大学図書館長）が来所され、東京大学とストラスブール大学との学术交流について、意見交換されました。また、西郷教授および東京大学 尾城孝一 図書館情報管理課長はストラスブール大学の Ms. Catheline FORESTIER（ストラスブール大学図書館長）を訪問され、中谷センター長が同行しました。



西郷和彦教授（左から2人目）と。學術振興会（左）日仏大学会館（右）の名の入った提灯は西郷教授からの御土産。

1月26日 / お茶の水女子大学の今野美智子教授、鷹野景子教授、宮元恵子准教授が来所され、中谷センター長から JSPS の事業説明を行った後、中谷センター長、Prof. Marc PLANEIX（ストラスブール大学化学部長）、Prof. Catheline GROSMANGE（ストラスブール大学化学部）、Prof. Marie Claire LETT（ストラスブール大学生物学部教授、日仏大学会館長）と、ストラスブール大学 - お茶の水女子大学間の JSPS ITP プログラムに関する打ち合わせが行われました。



中谷センター長による当センターの事業説明。

1月30日 / 2010年度に開催を予定している仏独 JSPS 同窓会共催シンポジウムに向けた第4回打合せを、ストラスブールの日仏大学会館にて行いました。今回の打合せでは、ドイツ JSPS 同窓会（German JSPS-Club）、JSPS ボン研究連絡センター、フランス JSPS 同窓会（France Alumni Association）、及びストラスブール研究連絡センターから計9名の出席者を得て、打合せを行いました。



第4回打合せの様子。

2月24日 / お茶の水女子大学の佐々木泰子教授（お茶の水女子大学グローバル教育センター長）、岡村郁子講師（お茶の水女子大学グローバル教育センター）が来所され、中谷センター長、Prof. Catheline GROSMANGE（ストラスブール大学化学部）、Ms. Anne KLIPFEL（ストラスブール大学国際課）、Prof. Marie Claire LETT（ストラスブール大学生物学部教授、日仏大学会館長）と、ストラスブール大学 - お茶の水女子大学の学术交流について、打合せを行いました。



打合せの様子。

